

平成 23 年度 大学の世界展開力強化事業構想の概要【米国大学等との協働教育の創成支援】

| | |
|----------------|--|
| 大学名 | 早稲田大学 |
| 構想名称 | 早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム |
| 相手大学等名 (国名) | コロンビア大学・ジョージタウン大学・ペンシルベニア大学 カリフォルニア大学バークレー校・ワシントン大学 |

【構想の目的及び概要】

本プログラムは、日本と米国、より広く言えば東洋と西洋の両方の歴史・文化・社会を熟知したうえで、国際社会において強いリーダーシップを発揮する人物を育成するプログラムである。

本学は、1882 年の設立以来、「**東西文明の調和**」という**建学の精神**の下、海外から数多くの留学生を受け入れるとともに日本人学生を海外へ送り出してきた。また本学は、これも建学以来、百数十年にわたって、政治・ビジネス等の分野で日本あるいはアジアの社会のリーダーを数多く輩出してきた。そして、グローバル化が急速に進展する現在、世界についての幅広い知識と卓越した能力ならびに豊かな人間性を兼ね備えたリーダーを育てることは、21 世紀において「**地球市民の育成**」を目指す**早稲田大学の使命**であると考えられる。この使命を実現化すべく、日米大学の協働教育によって国際社会のリーダーになる人物を育成するプログラムを開発する。

現在の国際社会においては、米国・西欧諸国・日本に加えて東アジア諸国が経済的に台頭し、世界の経済・政治・文化はますます多極化しつつある。こうした世界においてリーダーシップを発揮するには、東洋と西洋の両方の知識を持ち、それらを互いに尊敬・配慮したうえで物事を多面的に洞察し、優れた判断と意思決定を行うことが必要になる。更には、知識・情報・科学的な分析等の知的能力の高さのみならず、人間的なコミュニケーション能力、そして**勇気・信念・奉仕・貢献**といった全世界に共通する高貴な価値観をもつことも重要となる。

そこで、本プログラムでは、早稲田大学が米国の 5 大学(東海岸 3 大学と西海岸 2 大学)と協働で、「**東西文明の調和**」の**スピリットを持ったグローバル・リーダーを養成**する。本プログラムが対象とする学生は、広く言えば早稲田と米国 5 大学の全学部生であるが、その中でも特に将来のトップリーダーの候補の教育が中心となる。まず、早稲田大学の全学部生から、彼らの 1 年次の秋に知的能力・人間性において極めて大きな潜在力をもつ学生を選抜し、彼らの卒業までの 4 年間を通じて、今後の国際社会において強いリーダーシップを発揮する人物を育成する。彼らは早稲田大学での 1 年半の入門・導入教育期間のみならず、米国の 5 大学への 1 年間の留学中も、日本と米国、東洋と西洋に関する歴史・文化・哲学・宗教・社会・政治・経済を英語で学習して高度な教養力を養う。協働する米国の 5 大学はいずれも世界トップレベルの大学であり、そこでの学習は学生たちの知的能力を飛躍的に伸ばすとともに、コミュニケーションも含めたグローバルな対応力を高める絶好の機会となる。加えて、米国のへの留学中は、リーダーシップ論(西洋的・非西洋的の両方)の講義・プログラムを受講し、講義期間終了後はインターンシップを通じて米国社会・国際社会での経験を積む。

日本への帰国後は、米国 5 大学からグローバル・トップリーダー候補の学生を迎え、彼らとともに**1 年間の日米共同ゼミ**を作り、そこで世界的規模の問題を解決するためのグループプロジェクトを行う。この日米共同ゼミは、早稲田大学の教員と米国 5 大学から招へいた教員によって指導される。そして、そのプロジェクトの成果を、本学日米研究機構や本学が加盟する U21 の学生対象の国際学会で発表する機会を設ける。更に、ワシントン DC の日米研究インスティテュート(USJI: 京都、慶應義塾、東京、立命館、早稲田の 5 大学で共同運営するシンクタンク)でも同様の機会を検討する。また、この 1 年間の日米共同ゼミを通じて、日米の学生は異文化間の相互理解と相互協力を体験的に身につけるとともに、東洋・西洋という文明を超えたリーダーシップの在り方を実践的に学習することになる。そして、**日本の学生のみならず、米国の学生にも東洋の知識・価値観を併せ持ったグローバル・リーダーとなるための教育を提供**することは、本プログラムのユニークな特徴の 1 つである。

なお、日米共同ゼミ以外の本プログラムの講義(早稲田大学の教員による講義、招へいた米国 5 大学の教員による講義: 言語はともに英語)は、早稲田大学の全学生にも公開されるとともに、**遠隔教育(オンライン)で米国 5 大学にも配信**される。したがって、選別されたトップリーダー候補以外の学生も、本プログラムから東洋と西洋の歴史・文化・社会・リーダーシップに関する知識を得ることができる。このプログラムに何らかの形で参加した日米の学生が、将来、国際機関や日米政府、グローバルなビジネス界、あるいはアカデミクスの分野で、世界中の様々な問題を自ら提示し、その解決においてリーダーシップを発揮することを期待している。

更に、このプログラムの実施には、早稲田大学と米国の 5 大学の間で**教員・スタッフの協働と交流が活発化**するという副次的な効果がある。米国 5 大学の教員が早稲田大学での講義を担当するほか、早稲田大学の教員も 5 大学を訪問し、講義の見学や教授法・国際プログラムの研究を行う。また、日米間のスタッフディベロップメント(特に遠隔教育の分野等)も盛んになる。これらの米国のトップ大学との全学的関係の構築は、早稲田大学ひいては日本の大学の教育・研究活動を世界水準に引き上げるとい意味で、**我が国の大学の国際競争力の強化**に大きく貢献する。

【構想の概念図】



早稲田大学学生の 4 年間の学生履修イメージ

| | | トップリーダー候補学生 | 全学学生 |
|-----|---------------|---|-------------|
| 入学 | | 入学前から広く本プログラムを広報する | |
| 一年次 | 入門教育 | 日本・米国、そして東洋・西洋の歴史・文化・社会に関する講義を英語で受講し、本プログラムの参加者の基礎学力の向上を目指し、トップリーダー候補学生の選考への準備期間とする この講義は遠隔講義（オンライン）にて米国相手校 5 大学の学生にも配信される | |
| | 選考 | 10 月頃に GPA、TOEFL iBT 88（目安）、所属学部長からの推薦状、日本及び国際社会についての論文（日英）によって 12 名の候補者を選考する | |
| 二年次 | 導入教育 | 少人数クラスの集中講座の受講（東洋・西洋の古典の購読、日本の歴史・文化に関する講義）、留学準備講座の受講（アカデミックスキル）、チュートリアルイングリッシュ | |
| | 海外留学 | 米国の歴史をはじめとする米国研究の基礎教養を身につけ、通常の交換留学とは異なったリーダーシップ論を含めたコースの受講 | |
| 三年次 | | 現地で自ら国際機関・現地企業でのインターンシップに申し込み、国際社会・米国社会での経験を積む | |
| | 帰国後 カリキュラム | 日米共同ゼミ（テーマはグローバルイシューの解決）への参加、本学と米国相手校の教員の共同指導によるグローバル・リーダーシップに特化したコア科目の受講 インターンシップ・ボランティア活動への参加 | |
| 四年次 | | <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> </div> | |
| | 卒業論文 | プログラム参加学生による国際学会などでの発表 日米共同ゼミの成果を発展させて英語による卒業論文を執筆する | |
| 卒業 | | グローバル・トップリーダーへ | グローバル・リーダーへ |

平成23年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

| | |
|--|--------------------------|
| 大 学 名 | 早稲田大学 |
| タ イ プ | B-I |
| 構 想 名 | 早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム |
| <p>〔評価コメント〕</p> <p>貴学の国際化に関する実績や経験を踏まえた上で、「東西文明の調和」のスピリットを持ったグローバル・リーダーとなる候補学生を募集し、学部一年生の段階からチームとして育成する取り組みは、創造的、かつ意欲的な構想であり評価できる。また、全学部から選考するシステムや、日米で選抜された人材の交流が計画されているなど、グローバル・リーダーの育成に期待が持てるとともに、全学学生の育成をも組み合わせる広範なプログラムとなっており、大学全体の国際的な展開力の強化が期待され、本事業の趣旨に十分に合致している。</p> <p>しかしながら、全学部学生を対象にグローバル・リーダーの育成を目的とする副専攻プログラムとして設置され、日米共同ゼミを中核に据えているが、日米共同ゼミの内容に関する米大学との合意形成と協働事業としての位置づけ、帰国後の「英文による卒業論文」の執筆と各学部の専門教育との関係など、カリキュラムの設計については、相手大学とさらに協議を行い、より充実したプログラム実施のため、組織的な取り組みを強化することが望まれる。</p> | |